

令和5年度 東京都立松原高等学校定時制課程 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 東京都立松原高等学校 学校運営連絡協議会（定時制課程）
- (2) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主任教諭（生活指導部主任） 計4名
- (3) 協議委員の構成
学識経験者（大学学部長他）、警察署（係長）、消防署（所長）、地域自治会（副理事長他）
PTA会長、同窓会会長、校長が認める者（教育関連企業事業部長） 計12名

2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会
 - ア 第1回 令和5年6月30日（金）内部委員10名、外部委員9名
協議委員委嘱、評価委員選出、令和5年度学校経営計画説明
 - イ 第2回 令和5年12月7日（木）内部委員10名、外部委員5名
上半期の進捗状況報告、学校評価アンケート説明
 - ウ 第3回 令和6年3月14日（木）内部委員10名、外部委員8名
教育目標達成に向けた取組報告、学校評価アンケート集計結果報告
- (2) 評価委員会
 - ア 第1回 令和5年12月7日（木）内部委員3名、協議委員2名
学校評価アンケートの質問内容について検討、集計スケジュール確認
 - イ 第2回 令和6年3月14日（木）内部委員3名、協議委員2名
学校評価アンケートの集計結果における分析及び検証について

3 学校評価アンケート調査報告

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の課題解決に対する意欲」「学校の取組」「学校の成果」
- (2) 実施時期・対象・回答数
 - ア 12月 全校生徒 対象：28名 回答：21名（回答率 75%）
 - イ 12月 全保護者 対象：28名 回答：8名（回答率 29%）
 - ウ 12月 地域 対象：11名 回答：3名（回答率 27%）
 - エ 12月 教員 対象：8名 回答：7名（回収率 88%）
- (3) 評価項目
「学校生活全般」「学習指導」「生活指導」「進路指導」「スクールカウンセラー」「給食」
「学校ホームページ」「学校施設」「ライフ・ワーク・バランス」の9領域25項目
- (4) 評価結果の概要
各評価結果を集計し、生徒・教員・保護者の意識傾向差を確認した。

(5) 評価結果の分析・考察

主として調査方法を「FORMS による入力回答」にした。

ア 全校生徒：肯定的評価はどの項目も過半数を超えている。

- ・「学校生活が楽しい」が 91%。「気軽に相談できる先生がいる」「松原高校に入学してよかった」95%とあり、学ぶことに満足していることがわかる。
- ・「学校の生活指導は適切に行われている」100%、「部活動が楽しい」81%とあり、落ち着いた学校生活の基盤となっている。
- ・「将来について考える行事やHRがある」100%、「ひとり一人の進路希望に進路希望に合わせた指導をしている」95%とあり、生徒に進路について考えさせ、ひとり一人に寄り添った進路指導をしていると感じてくれている。

イ 保護者：肯定的評価が高いが項目により低いものもある。

- ・「学校生活が楽しく送っている」100%、「先生は、子どもの相談に応じてくれている」100%、「入学させて良かった」100%とあり学校への満足度が非常に高いことがわかる。
- ・「生活指導が適切に行われている」は、「そう思う」が100%で保護者の信頼度が高いことがうかがえる。
- ・「将来について話をしてくれる」「将来について具体的に話をしてくれる」50%で、学校で考える機会を与えているが、まだまだ具体的に考えられていないか、生徒個人が保護者に話が出来ていないと推察する。

ウ 地域

回答方法を「FORMS による入力回答」に加えて「アンケート用紙への記述回答」に変更したことにより昨年度回答者は0人から今年度3人に増えた。今後、回答を高める工夫が必要である。また、地域に対しての情報発信や連携などを工夫して行くことが課題である。

エ 教員

全ての項目で肯定的回答が過半数を占める。放課後や長期休業期間中の補習授業の充実、学校全体での遅刻指導の改善、キャリア教育の計画改善など教員間の更なる意識向上を図る。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・地域や小中学校との交流する機会を増やし、教育内容を広く知っていただく取組が必要であると認識できた。

(2) 課題

- ・近隣の住民は、教育内容をより一層知りたいと望んでいることが分かった。
- ・より適正な評価を行うためには、協議委員や地域に対して、もっと情報提供すべきである。

5 学校運営連絡協議会や学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

ゆっくり、しっかり、一歩ずつ学びを深める教育力をもって、生きていく力を育む。

(2) 学習指導

個に応じた学習課題の把握に努め、「楽しい授業」「分かりやすい授業」で基礎学力をしっかりと

定着させる授業実践を推進する。

(3) 生活指導

挨拶を励行し、ルールやマナーを重んじた授業規律を基盤とした生活指導を推進する。

(4) 特別活動

多様性を尊重し、学校生活にゆっくりと順応する交流や協働体験を推進する。

(5) 進路指導

関係機関と連携し、社会とのつながりを一歩ずつ体感させるキャリア教育を推進する。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合（協議委員 11 名）

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
1	2				2	6

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

特になし